

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 橋口 隆吉 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元副会長、日本学士院会員、東京大学名誉教授、元東京理科大学工学部長故橋口隆吉博士は、平成8年10月4日、ご逝去されました。享年82才でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに追悼の辞を捧げます。

先生は本会の理事2期4年間、うち昭和41年4月から同43年4月までは副会長を勤められ、その後長期に渡り本会評議員として本会の発展に寄与されました。また昭和41年8月から同55年4月まで欧文会誌分科会主査としてTransactions of the ISIJを世界的最高水準の学術誌とすることに寄与され、昭和50年協会事業功労賞を受けておられます。この他関連学協会での活動も目覚ましく、日本金属学会会長、日本結晶成長学会会長を勤められ、日本学術振興会におきましても委員会委員長として活躍されました。

先生は金属学および関連領域において優れた研究業績をあげておられます。特に格子欠陥論の分野では“橋口ピーク”と呼ばれる緩和型内部摩擦の発見とその転位論的解明により、国際的に知られております。これらに対し昭和49年に西山賞をうけられ、同51年には日本学士院賞、同56年には日本金属学会賞、同57年には本多記念賞を受けておられます。更に昭和61年には鉄鋼その他の物理冶金的金属学研究に対する大きな貢献をされたことにより本会名誉会員とされました。

先生は学術の国際交流には特に力を入れてこられ、昭和45年本会主催の第1回鉄鋼科学技術国際会議で実行委員長を勤められたほか、数多くの国際会議で組織委員長としてご活躍されました。この間オーストリア科学アカデミー外国人名誉会員とされました。また、日中科学技術交流協会会長として両国の友好と学術交流に尽力され、中国科学院金属研究所名誉教授とされました。更に、国際学会誌におきましてもCrystal Lattice Defects, Journal of Nuclear Materialsなどの編集委員長、Acta Metallurgica副編集委員長、Radiation Effects編集長として国際的に指導力を発揮されました。

このような研究ならびに教育における著しいご業績に対し昭和62年には勲二等瑞宝章を受けられました。

平常ご健康に留意しておられ、お元気であられたので益々のご指導を賜れるものと思っておりましたが、永遠のお別れをしなければならなくなり、誠に痛恨の極みであります。

名誉会員橋口隆吉先生の本会発展に尽くされました偉大なご業績を偲び、会員一同心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成8年10月

社団法人日本鉄鋼協会 会長 野田 忠吉